

医学系研究に関する情報公開文書

研究課題名	妊娠中の子宮頸部異形成の診断と取扱いに関する後方視的検討
研究責任者	愛葉美奈
研究機関名	日本赤十字社医療センター 産婦人科
研究目的と意義	<p>妊娠中の子宮頸部異形成の取扱いについては、日本産科婦人科学会「産婦人科ガイドライン—産科編2017」に記載があり、妊娠初期に子宮頸部細胞診を行うこと、細胞診で異常が認められた場合は必要に応じてコルポスコピーや組織診で評価することや、分娩後に再評価を行うことなどが推奨されています。また、細胞診の結果によっては非妊時と異なる推奨があり、例えば浸潤癌を疑う所見がない場合は円錐切除術を分娩後まで延期することなどが記載されていますが、未だエビデンスレベルの高い推奨はありません。</p> <p>当センターでは妊娠中に診断された子宮頸部異形成に対し実際にどのような対応を行っているのか、また妊娠中の子宮頸部異形成がその後どのような経過をとっているのか、当センターでの成績を後方視的に解析します。この研究結果をふまえて、今後の適切な治療へつなげていきたいと考えています。</p>
研究方法	<p>対象は、2014年1月～2018年12月の間に当センターで分娩となった方の中で、妊娠中に当センターで子宮頸部細胞診が行われた方です。これまでの診療録の内容や当センターで作成している分娩台帳をもとに、後方視的に解析します。</p> <p>調査項目は、年齢、分娩歴、分娩週数、胎数、分娩方法、児の体重、児の入院の有無、既往歴、子宮頸部細胞診および組織診の結果、コルポスコピー実施状況、子宮頸部異形成に対する治療内容です。研究結果は学会で公表されます。</p> <p>倫理的配慮:解析は、個人情報の保護に十分配慮した上で行います。個人名が特定されないよう、患者さんの情報は匿名化されます。上記対象に該当する方で、本研究への登録を希望されない場合は、下記までご連絡ください。登録を希望されなくても不利益を被ることはありません。</p>
問い合わせ先	<p>日本赤十字社医療センター 産婦人科 〒150-8935 東京都渋谷区広尾4-1-22 担当者：愛葉 美奈、山田 学 TEL：03-3400-1311 FAX：03-3409-1604</p>